

〔成績〕 正常者 (10例) は  $23 \sim 36\%$  ( $31.01 \pm 3.86\%$ ) に分布し, 甲状腺機能亢進症 (16例)  $39 \sim 58\%$  ( $48.20 \pm 5.46\%$ ), 単純性びまん性甲状腺腫 (7例)  $24 \sim 35\%$  ( $30.11 \pm 3.63\%$ ), 悪性甲状腺腫 (7例)  $20 \sim 34\%$  ( $28.79 \pm 4.75\%$ ), 結節性甲状腺腫 (36例)  $21 \sim 37\%$  ( $29.36 \pm 3.94\%$ ) 機能低下症 (5例)  $17 \sim 24\%$  ( $21.09 \pm 2.75\%$ ) であった。

亢進症と正常者との重なり合いはなかった。単純性びまん性甲状腺腫は正常域に分布し, 悪性甲状腺腫, 結節性甲状腺腫は正常域あるいはやや低値を示し, 低下症は  $24\%$  以下に分布したが正常者との重なり合いもわずかに認めた。resin 摂取率と  $^{131}\text{I}$  甲状腺摂取率とは, よく平行した。

基礎代謝率と resin 摂取率とは, 亢進症ではよく平行したが, その他の疾患では resin 摂取率に比し高値を示すものも数例認められた。機能亢進症手術例 6 例 (全例亜全切除) では, 術後各症例とも resin 摂取率は漸減し術後 7 日目では平均  $8.2\%$  の resin 摂取率の減少を認め, 手術効果は明瞭と考えられた。

悪性甲状腺腫 5 例 (全例半側葉切除術) では, resin 摂取率は術直後一旦低下するが, 術後 1 日目より回復し始め, 3 日目で上昇のピークを示し, 5~7 日目より術前値に近くなる傾向を示した。

結節性甲状腺腫 22 例 (20 例核出術, 2 例半側葉切除術) では, resin 摂取率は術直後より 3 日目まで上昇し, 5~7 日目ではほとんどの症例は, ほぼ術前値と同じかやや高値を示した。

以上より, 術後 TBC の変動は, 疾患の種類および手術手技の違いも関与するものと考えられる。

質問: 伊藤国彦 (伊藤病院) バセドウ病 36 例の術前後の triosorb 値について検討した。BMR はかなりばらつきがあり, とくに手術前日の値は半数以上は  $+40\%$  以上であった。triosorb 値は BMR より明らかな傾向を示し, とくに手術前日値は 2 例を除いて  $42\%$  以下であった。手術時期の判定に対し triosorb test は有用である。

\*

## 28. TSH, $\text{T}_3$ 投与による TBC および Resin Sponge Uptake 値の変動

速水四郎 仁瓶礼之 後藤宗治 石突吉博  
(名古屋大学日比野内科)

TSH および  $\text{T}_3$  を投与して甲状腺機能状態に変動を与

えたさい, TBC ならびに Resin Sponge Uptake (RSU) が平行して変動するか否か, またこれらの薬剤による甲状腺機能の変化をこれらの指標に代えることができるかについて検討を行なった。TBC はセルローズアセテート膜 (セパラックス) を用いて電気泳動を行ない, 田中らの方法に準じてラジオオートグラフ作製ののち well counter で測定し, PBI は Grossman and Grossman の方法, RSU は  $25^\circ\text{C}$ , 60 分の incubate 後測定した。

1) TBC は機能低下症では高値を示し, 正常人と機能低下症との間に重なり合いがみられた。RSU は機能亢進症では高値を示し, 正常人と機能低下症との間に重なり合いがみられた。TBC から PBI を除いた不飽和 TBC は各群の重なり合いが少なくなり, 機能亢進症では低値を示し, TBC の大部分が血中サイロキシンと結合していることを示した。

2) 不飽和 TBC と RSU との間には明らかに有意の逆相関がみられた。

3) TSH (サイロトロパール)  $10\text{usp}$  注射後,  $^{131}\text{I}$  摂取率, PBI の反応をみた群では TSH 投与前後における不飽和 TBC と RSU との間の回帰直線係数に変化をみなかった。

4) TSH に反応をみた群では TBC の減少傾向, PBI の増加をみ, RSU に増加の傾向をみたが有意の変化はみられなかった。

5) 正常人に  $\text{T}_3$   $100\text{r}$  1 週間投与した後では TBC の増加傾向, PBI の減少傾向をみ, RSU の減少をみた。

TSH 1 回投与で  $^{131}\text{I}$  摂取率および PBI の増加をみた例では TBC の減少傾向をみたが, RSU には有意の増加が認められず, TSH test としては従来の方法に優れているとは思われなかった。正常人においては, TSH 投与前後において, 不飽和 TBC と RSU 値との回帰直線係数に差がみられなかった。

質問: 浜田 哲 (京都大学三宅内科) TBPA と resin sponge uptake との関係について検討したか。今後この検討が必要と考えられる。

答: 速水四郎 プレアルブミン結合サイロキシン量については検討を行っていない。

\*